

2006 年 8 月の東北地方の天候

【 8 月の特徴 】

- ・ 少雨
- ・ 遅い梅雨明け

(1) 2006 年 8 月の概況

太平洋高気圧が平年に比べて北に張り出したため、東北地方は晴れて暑い日が多かった。期間の中頃、日本の南海上をゆっくりと北上し日本海へ進んだ台風第10号の影響により、暖かい湿った空気が流入し東北日本海側では顕著なフェーン現象が発生した。これにより、東北日本海側では日最高気温が35℃を超える日もあり、秋田と酒田では16日から22日にかけて7日連続熱帯夜となった。一時的に寒気や気圧の谷の影響によりにわか雨や雷雨となった所もあったが、太平洋高気圧が平年より北に張り出したため前線の影響を受けることが少なく、月降水量は少なかった。なお、今年の梅雨明けは遅く、東北南部、東北北部とも8月2日ごろであった（東南北部の梅雨明けは遅い方から第4位）。

月平均気温は東北地方で高い。月降水量は東北日本海側で少なく、東北太平洋側でかなり少ない。月間日照時間は東北北部で多く、東北南部で平年並。

(2) 各旬の天候経過

上旬：1日は梅雨前線や低気圧が本州付近に位置し、東北地方は曇りや雨の所が多く、またオホーツク海高気圧や寒気の影響で気温は低かった。2日からは前線が北上し太平洋高気圧に覆われ晴れて気温の高い所が広がった。東北地方は北部南部とも2日ごろ梅雨明けしたと見られる。9日と10日には上空に寒気が入り大気の状態が不安定となったため、局地的に雷雨となった。

平均気温は東北地方で平年並。降水量は東北地方でかなり少ない。日照時間は東北地方で多い。

中旬：期間のはじめは上空に寒気が入り込んだため大気の状態が不安定となり、にわか雨や雷雨の所が多く、山形県では降ひょうにより農作物への被害があった。その後は、日本の南海上をゆっくり進んだ台風第10号の影響により、東北太平洋側南部では曇りの日が多く、東北日本海側では晴れの日が多かった。また、東北日本海側を中心にフェーン現象が顕著にみられ、日最高気温が35℃以上を観測する所もあった。18日には暖かく湿った空気が入り込んだため、大気の状態が不安定となり東北北部と東北日本海側を中心に大雨となった。

平均気温は東北地方で高い。降水量は東北地方で平年並。日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で少ない。

下旬：期間の前半は台風から変わった低気圧に向かって湿った暖かい空気が流入したり、前線が通過したため、にわか雨や雷雨となった所があった。25日から27日にかけては移動性高気圧に覆われて晴れる所が多かったが、28日以降は寒気や気圧の谷の影響で所々にわか雨や雷雨となり、床上浸水や停電、交通障害などが発生したところがあった。

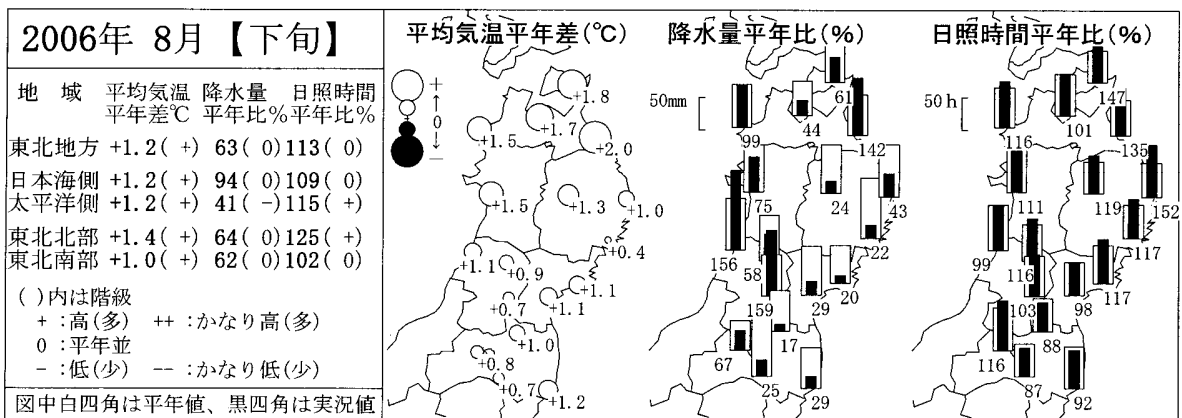
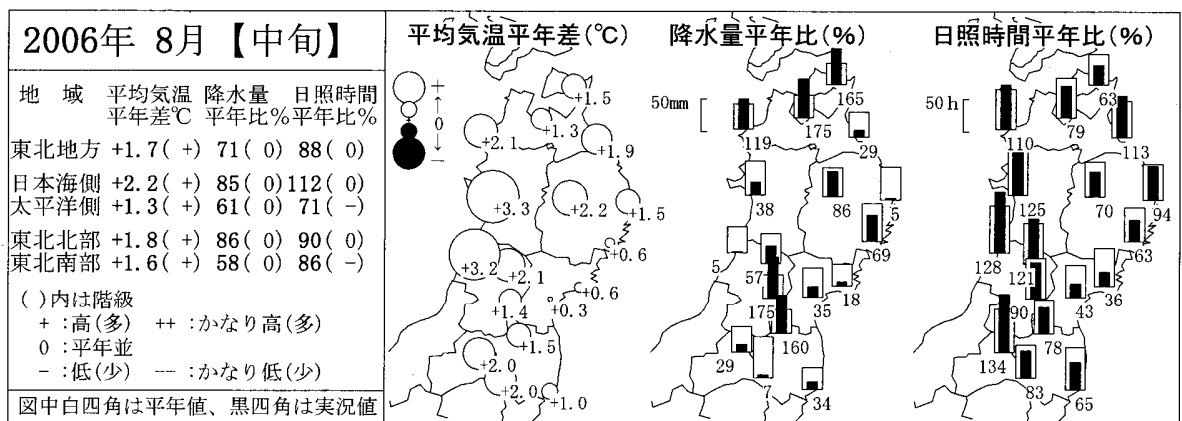
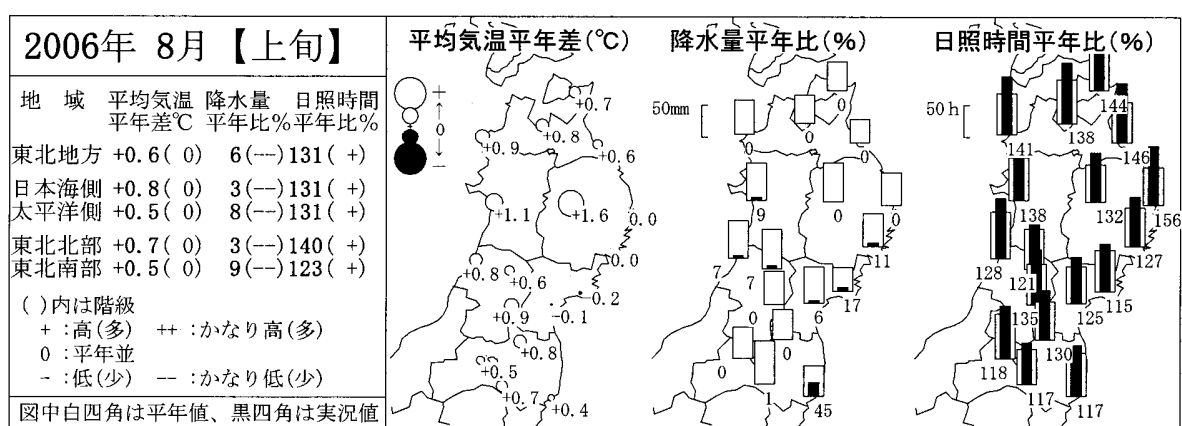
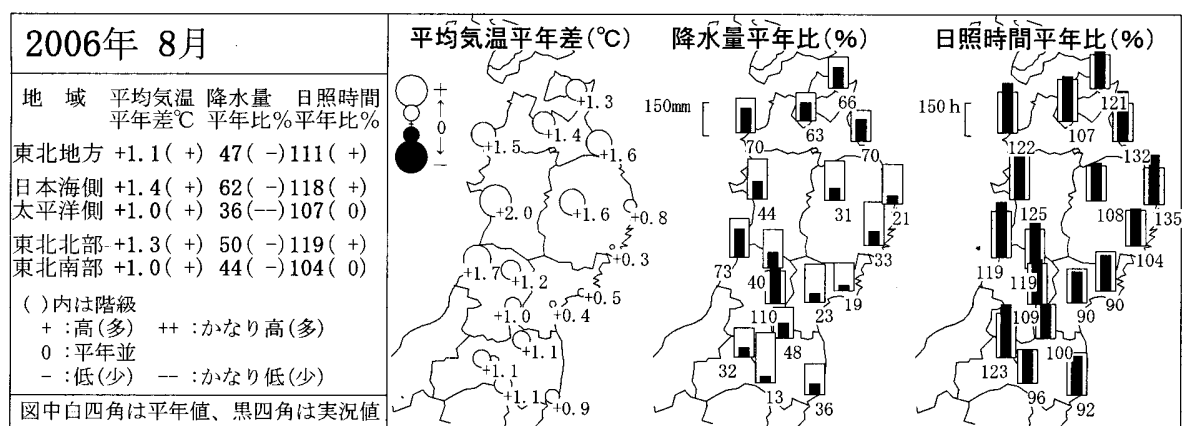
平均気温は東北地方で高い。降水量は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で少ない。日照時間は東北北部で多く、東北南部で平年並。

注) 気候統計値は、東北地方にある 17 地点の气象台、測候所、特別地域気象観測所の観測値より求めています。細分地域については 3 ページ目脚注 1 を参照して下さい。

平年値の統計期間は 1971-2000 年です。階級区分については、3 ページ目脚注 2 を参照して下さい。

本件に関する問い合わせ先：仙台管区气象台技術部気候・調査課統計係（電話：022-297-8110）

(3) 2006年8月の期間・旬平均(合計)値の平年差(比)



平年値の統計期間は1971～2000年。

(4) 2006 年 8 月の月気候表

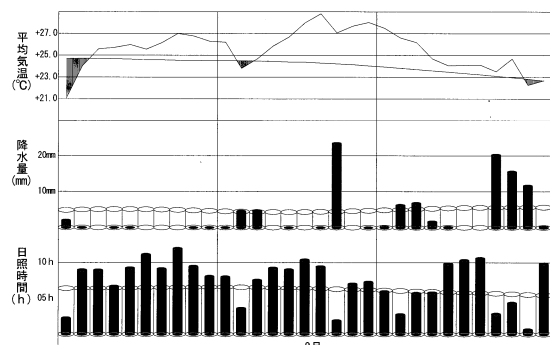
地 点	月平均気温(平年差)			月降水量(平年比)			月間日照時間(平年比)		
	℃	℃	階級	mm	%	階級	h	%	階級
青森	24.4	(+1.4)	+	82.0	(63)	—	204.2	(107)	○
深浦	24.6	(+1.5)	+	110.5	(70)	—	227.0	(122)	+
むつ	23.0	(+1.3)	+	93.0	(66)	—	184.5	(121)	+
八戸	23.9	(+1.6)	+	98.5	(70)	—	228.3	(132)	+
盛岡	24.8	(+1.6)	+	55.5	(31)	—*	170.9	(108)	○
大船渡	23.3	(+0.3)	○	65.0	(33)	—	167.5	(104)	○
宮古	23.0	(+0.8)	+	37.5	(21)	—	222.3	(135)	+
仙台	24.5	(+0.4)	○	40.5	(23)	—*	140.4	(90)	○
石巻	24.0	(+0.5)	○	23.5	(19)	—	160.5	(90)	○
秋田	26.5	(+2.0)	+	79.5	(44)	—*	249.9	(125)	+
山形	25.6	(+1.0)	+	163.0	(110)	○	201.9	(109)	○
新庄	25.1	(+1.2)	+	70.5	(40)	—	211.7	(119)	+
酒田	26.6	(+1.7)	+	128.0	(73)	○	250.8	(119)	+
福島	26.3	(+1.1)	+	69.0	(48)	—	159.8	(100)	○
若松	25.9	(+1.1)	+	41.5	(32)	—	245.0	(123)	+
白河	24.4	(+1.1)	+	30.0	(13)	—*	148.2	(96)	○
小名浜	24.8	(+0.9)	+	50.5	(36)	—	177.6	(92)	○

・「階級」の記号の意味は以下のとおり

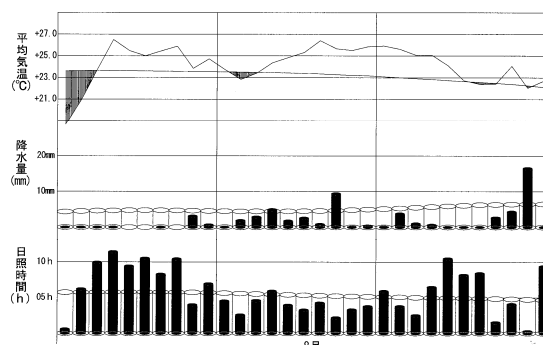
+:高い(多い) ○:平年並 —:低い(少ない) * は「かなり」を表す

・値の横に) や] がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等が含まれていることを示す。)付きの値(準完全値)は通常のものと同様に扱うことができるが]付きの値(資料不足値)については、値の下に記載した統計日数(統計に用いた、品質が十分な日別値の数)を参考にして、品質を確かめてから使用されたい。なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

(5) 2006 年 8 月の日別経過図



東北日本海側



東北太平洋側

気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均(気温:実線と点線、降水量・日照時間:黒い円柱と白抜き円柱)

注 1) 細分地域

東北日本海側: 青森県津軽、秋田県、山形県、福島県会津

東北太平洋側: 青森県下北・三八上北、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り

東北北部: 青森県、秋田県、岩手県

東北南部: 宮城県、山形県、福島県

注 2) 階級は「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3階級とし、それぞれの階級幅は、1971~2000年の30年間に於いて出現した値を等確率(33.3%)に区分しています。また、低い(少ない)方または高い(多い)方から出現率10%の範囲を、それぞれ「かなり低い(少ない)」、「かなり高い(多い)」と表し、補足的に用います。本資料の本文にある階級の表現も、「かなり低い(少ない)」、「かなり高い(多い)」に該当する場合はそのように記述し、細分地域により階級表現が異なる場合は地域を細分して記述しています。

(6) 2006 年 8 月の極値・順位の更新

(月平均気温、月降水量、月間日照時間の大きい方からの 3 位まで。)

月降水量少ない方からの順位更新

順位	地点名	降水量 mm	平年比 %	これまでの最小 mm (西暦年)	開始年	平年値 mm
1	白河	30.0	13	37.0 (1984)	1940	228.2

(注) 平年値とは 1971～2000 年の 30 年間の値を平均したものである。

(7) 8 月の高温をもたらした要因

8 月は太平洋高気圧に覆われることが多く、晴れて気温の高い日が続いたことや、偏西風が平年よりも北に位置し、寒気の影響を受けにくかったことが高温の要因と考えられる。

太平洋高気圧の勢力が日本付近で強くかつ持続した要因としては、①日本の南海上で期間の中頃を中心に活発であった対流活動による上昇流が日本付近の上空で下降流となり、太平洋高気圧の勢力を強めたこと、②夏期にアジア大陸の対流圏上層に形成されるチベット高気圧が平年に比べその勢力を北と東に伸ばし日本付近の上空を覆ったため、下層から上層まで高気圧となり、太平洋高気圧の勢力が維持されやすかったこと、の 2 つが考えられる (図参照)。

また、優勢な太平洋高気圧に阻まれて日本の南海上をゆっくり進んだ台風に吹き込む東よりの風等により、東北日本海側ではフェーン現象が発生し気温が高くなった時期があったのも高温となった要因の一つである。

8 月の高温と日本付近の大気の流れの特徴

